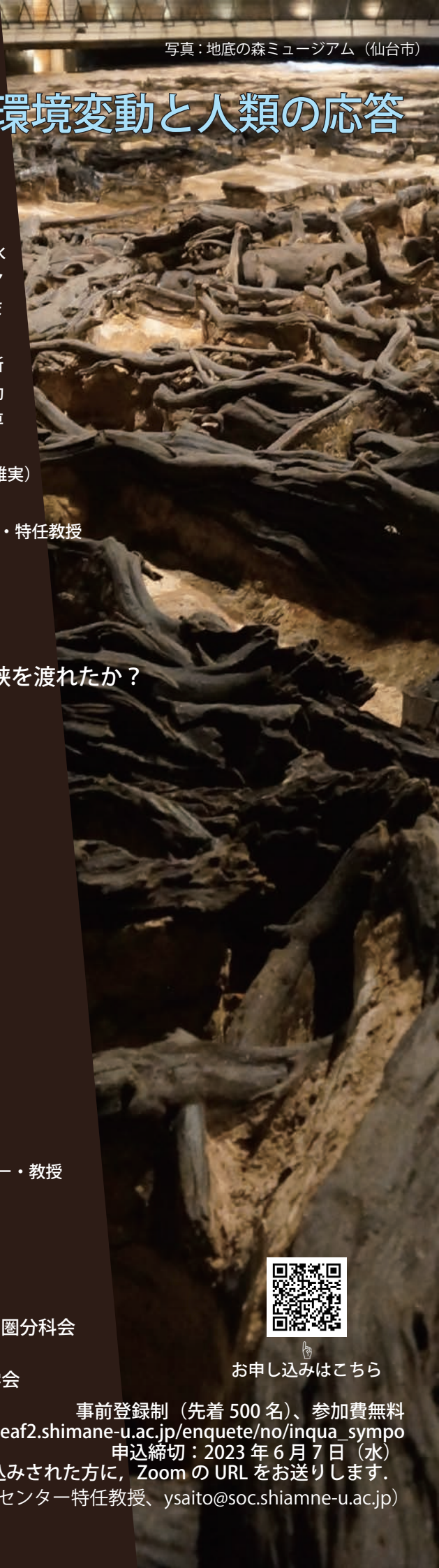
日本学術会議公開シンポジウム

最終氷期以降の日本列島の気候・環境変動と人類の応答



写真：地底の森ミュージアム（仙台市）

2023（令和 5）年 6 月 11 日（日）13:00 ～ 17:20
オンライン開催（事務局主会場：島根大学）

【開催趣旨】今よりも暖かかった 12 万年前の最終間氷期を過ぎると、地球は最終氷期と呼ばれる寒冷な気候に移行しました。ヒト（現生人類）は、この最終氷期にアフリカを離れユーラシアへ、またオセアニアや南北アメリカに広く拡散していきます。日本列島には３万８千年前にヒトが生活していたことがわかっています。
最近の十数年間に、古気候、古環境や人類・考古の研究は大きく進展し、多くの新しい発見がありました。本シンポジウムは、人類はどのように気候変動や環境変動に応答し現在に至ったかを、日本列島を中心に古気候、古海洋、人類、考古の各専門分野の最前線で活躍する人たちが、最新の研究成果とともに紹介します。

（世話人：齋藤文紀、出穂雅実）

13:00　開会挨拶・趣旨説明
　齋藤文紀　日本学術会議連携会員、島根大学エスチュアリー研究センター長・特任教授

13:10　過去 15 万年間の気候変動
　阿部彩子　日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所・教授

13:30　現生人類がたどってきた道
　海部陽介　日本学術会議連携会員、東京大学総合研究博物館・教授

13:50　アイスエイジから現在までの海水準：ヒトは歩いて海峡を渡れたか？
　横山祐典　東京大学大気海洋研究所・教授

14:10　最終氷期における日本周辺の海洋環境
　郭　新宇　愛媛大学沿岸環境科学研究センター長・教授

14:30　休憩

14:40　年縞から見た「暴れる気候」と人間の歴史
　中川　毅　立命館大学古気候学研究センター長・教授

15:00　日本列島の現生人類文化の出現、定着、変化
　出穂雅実　東京都立大学人文社会学部・准教授

15:20　古代ゲノムから見た日本列島の現生人類
　太田博樹　東京大学大学院理学系研究科・教授

15:40　休憩

15:50　樹木年輪から見た年から十年単位の気候変動
　中塚　武　名古屋大学大学院環境学研究科・教授

16:10　縄文・弥生社会の環境構築
　松本直子　岡山大学文学部・教授

16:30　綜合討論
　長谷部徳子　日本学術会議連携会員、 金沢大学環日本海域環境研究センター・教授
　出穂雅実　東京都立大学人文社会学部・准教授（司会）

17:10　閉会挨拶
　諏訪 元　日本学術会議連携会員、東京大学総合研究博物館・特任教授

17:20　閉会

主　催：日本学術会議　地球惑星科学委員会国際連携分科会、地球・人間圏分科会
共　催：日本第四紀学会、島根大学エスチュアリー研究センター
後　援：日本考古学協会、日本旧石器学会、日本人類学会、地球環境史学会

お申し込みはこちら

事前登録制（先着 500 名）、参加費無料
申込先：https://www.leaf2.shimane-u.ac.jp/enquete/no/inqua_sympo
申込締切：2023 年 6 月 7 日（水）
申し込みされた方に，Zoom の URL をお送りします．

連絡先：齋藤文紀（日本学術会議連携会員、島根大学エスチュアリー研究センター特任教授、ysaito@soc.shiamne-u.ac.jp）